

令和3年度（2021年度）八王子市立中学校・義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 音楽(器楽合奏) (1/1枚目)

調査の観点	教育出版	教育芸術社
<p>1 内容                      (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。                      (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)目標及び内容の押さえ方                      ・それぞれの楽器についての練習曲や演奏曲が数多く掲載され、特に等については、演奏技術上、興味をひく内容となっている。                      ・管楽器群、弦楽器群、打楽器群で比較ができるような提示部分があり、生徒が発展学習をしやすいように作られている。                      ・発展的な学習につながるような資料(紙面)やPCを使った資料の提示が多数ある。</p> <p>(2)発達段階への配慮                      ・小学校で使用したソプラノリコーダーの楽譜が併記されており、アルトリコーダーとの比較がしやすい。                      ・「ギター&amp;キーボードコード表」に写真が使用され見やすく、自学自習をする際に使いやすい。</p>	<p>(1)目標及び内容の押さえ方                      ・学習活動を通して培われてきた音楽(楽器)との豊かな関わり方を、プロの演奏家や音楽批評家の言葉で分かりやすく説明され、読みやすく明記されている。                      ・3年間を通じて学ぶ学習内容が分かりやすく表で示されており、生徒が見通しを持ちやすい。                      ・技能の習得に必要な基礎知識が明記されており、自習する際にも分かりやすい内容になっている。                      ・取り上げられている楽器の種類が多く、多様な見方や考え方を学ぶことができる。</p> <p>(2)発達段階への配慮                      ・小学校で使用したソプラノリコーダーの楽譜が追加されており、アルトリコーダーとの併用が安易である。また、難易度に合わせて変え指の使用等が明記され、発展的な学習に取り組みやすい。                      ・生活に密着した選曲が増え、世界中に知られた諸外国の曲やクラシック音楽など親しみやすい曲を取り入れている。</p>
<p>2 構成上の工夫                      (1)重点調査項目                      「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。                      (2)構成・分量等、生徒の発達段階を十分に配慮しているか。</p>	<p>(1)深い学びへの配慮                      ・練習を続けることによる、難易度の高い曲に挑戦できるような選曲になっている。                      ・演奏するにあたり工夫すべきことが明記されているので、自分で課題をもって取り組むことができる。                      ・唱歌(しょうが)について詳しい説明があり、数種類の楽器に見られる。</p> <p>(2)発達段階への配慮                      ・楽譜のそばに細かな説明が書かれてあるので、演奏をする時に確認しやすい。                      ・和楽器の取り扱いについて偏りが少なく、丁寧な説明が多い。</p>	<p>(1)深い学びへの配慮                      ・楽器ごとに適度な量が配分されており、楽器の名称や扱い方が見やすく配置されているので学習に使いやすい。                      ・音楽作りを深めていく過程で考えるべき項目が対話形式で示されており、生徒が工夫すべき点の分かりやすい。(リコーダーに関して)                      ・バンド譜や郷土の祭りなど、音楽活動を身近に感じさせる項目が増えたことで、興味・関心が高まる可能性がある。</p> <p>(2)発達段階への配慮                      ・見開きページに資料が示されていることが多く、読みやすく使いやすい。                      ・レイアウトに工夫があり、紙面に適度なスペースがあるため、書き込みやマーキングがしやすい。</p>
<p>3 情報活用能力の育成に関する配慮をしているか。                      (1)生徒の情報活用能力を育む構成となっているか。                      (2)生徒一人一人がコンピュータを活用できる工夫がされているか。</p>	<p>(1)情報活用能力の育成                      ・分野ごとに、各楽器の構え方や奏法が写真により一目でわかる。また、説明も的確で、「まなびリンク」と併用することで、情報を視覚的、聴覚的な面からも整理することができる。</p> <p>(2)コンピュータ活用の工夫                      ・「まなびリンク」により、楽器の奏法の違いから生まれる音色などを動画などから知覚することができる。                      ・デジタルコンテンツを家庭学習や学習を深める情報収集に活用できるようQRコードを配置している。</p>	<p>(1)情報活用能力の育成                      ・分野ごとに、複数の種類の楽器や、演奏形態が掲載されており、幅広く学習することができる。各楽器の構え方や奏法が写真により一目で分かる。</p> <p>(2)コンピュータ活用の工夫                      ・デジタルコンテンツを家庭学習や学習を深める情報収集に活用できるようQRコードを配置している。演奏者に特化している。</p>
<p>4 使用上の便宜                      (1)教員にとって、使いやすくするための配慮がされているか。                      (2)生徒にとって、読みやすい表現であるか。                      (3)地域性に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ                      ・見開き1ページに、情報がまとまっているため、実践に移りやすい。</p> <p>(2)生徒にとっての読みやすさ                      ・項目ごとにまとめられた文章が多く、ユニバーサルフォント採用している。文字の大きさは適当である。奏法における手元の写真が大きく、分かりやすい。</p> <p>(3)地域性                      ・各分野の歴史的な分野にふれ、関心がもてるようにしている。</p>	<p>(1)教員にとっての使いやすさ                      ・情報量が充実しており、楽器の歴史や基礎的な奏法をじっくり学ぶことができる。</p> <p>(2)生徒にとっての読みやすさ                      ・項目ごとにまとめられた文章が多く、ユニバーサルフォント採用している。文字の大きさは適当である。奏法における手元の写真が大きく、分かりやすい。</p> <p>(3)地域性                      ・各分野の歴史的な分野にふれ、関心がもてるようにしている。</p>
<p>5 その他</p>	<p>(1)日本の伝統文化について                      ・巻頭に日本の伝統文化に関する内容にふれている。(和楽器の稽古を通じた礼儀や感謝の心など)</p> <p>(2)製本について                      ・和綴りで製本されており、丈夫である。</p>	<p>(1)日本の伝統文化について                      ・巻末に和楽器の音楽についてふれている。(全国の和楽器の部活動の紹介)</p> <p>(2)製本について                      ・糸で綴じられ製本されており、どのページを開いても安定している。</p>